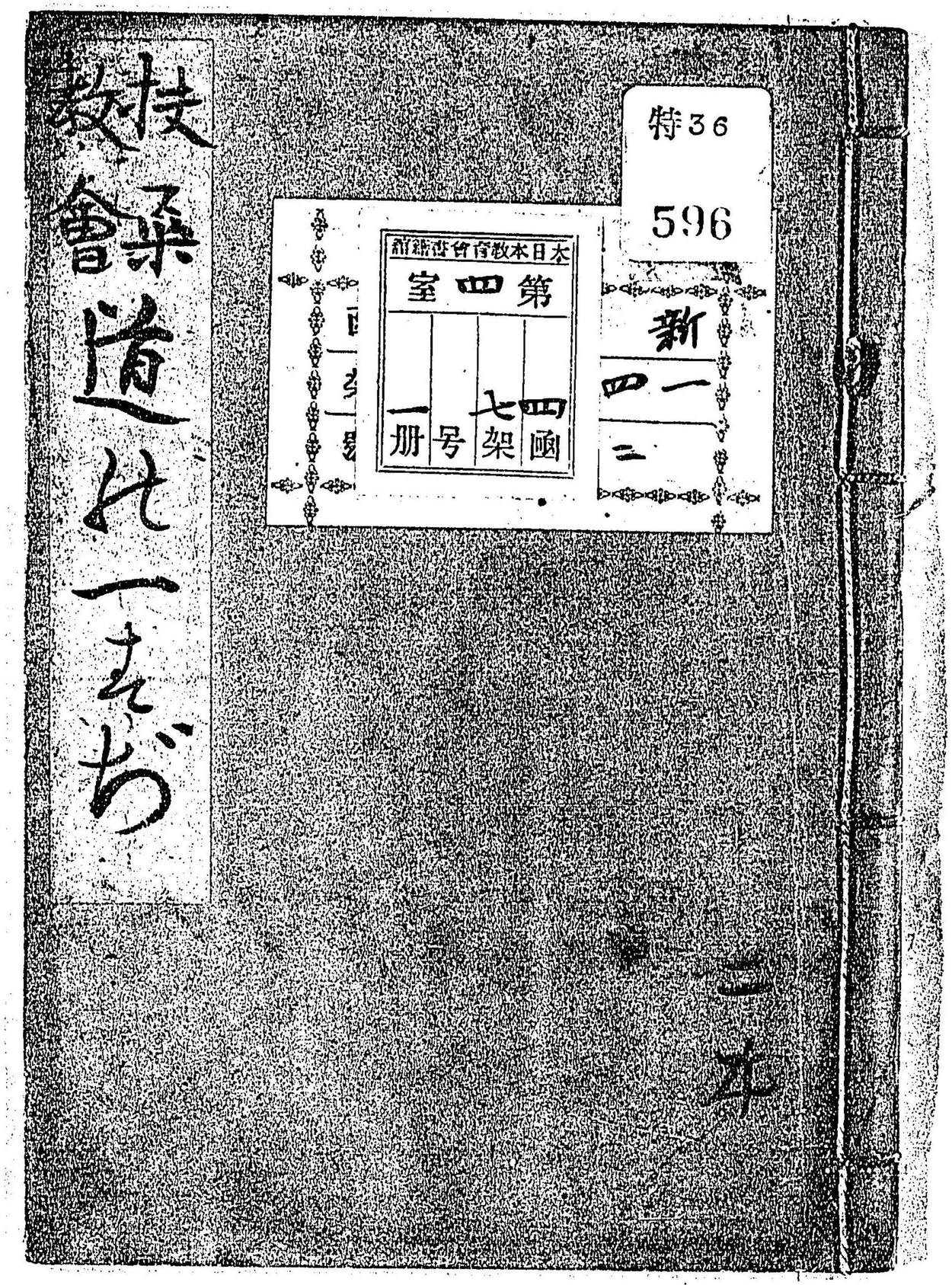

014592-001-3

特36-596

扶桑教会道の一すぢ

小沢 彦遅/著

1冊(4丁)

M10

ABB-1010

特36
596

教會

小澤彦遲著

扶桑

道はしがき

定價金壹拾錢

心鏡煒煌

教導職試補竹芳雪拔書

魂の通ふ天路の
ひと筋を
登りもとめむ
富士のたかやま

權少教正宍野半

善きことはよゝと
よくみて世の中に
つきせぬみ魂
けかすなよゆめ

梶豐

道の

樞中講義小澤彦遲述

天人の教の道は眞の一筋にて素より己々の心に備りたる神理固有の德なり二岐にして他に探り求るに〳〵あらざ其身に染着て生れ出るぞかし御傳の心白生我志がしと云へるぞ是なり抑天地の發け初めの時大空に一物なりて神と成る天御中主神此大御神ぞ天と地との眞中の主よして其御神德より次に高皇產靈神神皇產靈神顯れ玉ふ此三柱の神ぞ萬物を生びなし給ひける元祖角行尊師の澁間大御神より御直傳を蒙むりし參明け太素と奉申

神なり偖參明と申すは三柱の神の御德にして天と四方を覆て私なく地の群類を載て私なく陰陽の萬物を養育て〻私なく眞の德の天と地とに參りて世の中と事ら總て主宰し給ふの明なりといふ理にて此國土の水の上に油と浮ぶ如く漂ひて氣象全からざる時に太素神より始て教を下し伊邪那岐神伊邪那美神に命し給ひて天沼矛を賜はり漂ひ國土を修理固成ため二柱の神其矛を國の眞柱と見立給ひて夫婦と契りをなし國島ならびに日神月神其外有職の神々を初め鳥獸虫魚より草木まで世の中と有る物を生なして月の御子白露の御たまゝる日の御照しと神諭の如く夜い月妙なる光に給ふ露の水氣よ養れ晝は日の御照しの惠に天氣を受て露のかはくがまに〳〵萬物共に生活繁茂する其中に人い靈長として眞と云一物の白くあざやかなるを持て生れ出しなれば彼鳥獸虫魚草木まて太素神の生びなす靈德なれば都て人の用となすべきにて人是を自在に取扱ふもなれば又萬物に異なる教てふ道と一筋ありろは太素心として眞と云賜ふなり偖此心の樣は水と如く清らかなれど外欲にひかれてて濁る事あり是善惡と差ある所以一向に天授たる眞と惜なる一物を一躰よとり固めて教育と道

を一筋とふと行べし譬ば心は人身の田地なり教は耕ずあり學の種を下すあり勤は蕃殖あり行は耨るあり然して後に其實心は中と充盈て皮肉農饒に身躰全く肥るなり此教に從ふ徒は身修るまで富み榮て安く此教と悖る徒は身修るまで困窮は煩あり今生未來此生は有ん限り天地は有ん限り世々悖行なく一筋と御助け奉願上と元祖は御誓たまひて今生は更なり未來まで教は眞一筋と悖る事なく御助け守りたまへと太素神にふかく依托し奉願事よて其眞は御恩は高き事を思ふべし中興元祖食行身祿尊師の哥に

元は父元の母とはたらゆきの
富士はたかねをよろと見るかな

と詠せたまひしも太素神の群類を生なし人間を生育なす神德は既に前に述しか如く廣大にして實と今生より未來まで已々に備たる固有の眞を失ぎ死し後も其魂の歸着安穩を得る事よて御恩賴の高く貴きことと奉報に我力を盡して猶足ざるよ何ぞうかくとたて其恭なき趣をたらぎ富士の御山の大空に聳へ秀で天と地との眞柱にして皇國は鎭たる高く貴きも唱ぎよろにのみなすと云哥の意なり如此に元祖等は御心を盡し教へ傳へ置る

ゝを己々の心として太素神の御授け下し賜ひし心白と
いふ眞れ道を一筋と蹈行ひ其身〳〵よ備りし稼職の事を
專らと晝夜勤め勵みて身を祿ずる働きを心付べし彼の
蠶の虫を見よ桑を食ゝ四度れ起眠節にたがはぜ働きか
せきて後其身より結搆なる糸を吐き出して繭を作るは
身を祿とするの手本なりと身祿尊師の御諭し傳へ置れ
しぞ實によろしき譬へぞかし其身終るまで蠶の如く其
職に懈怠なく心を盡して大切に業を勤め身より出るの
祿を重ね持眞れ心を子孫に傳へなば死し後ゝ子孫より
必ず厚き報の祭を受べし如此して業ゝ少しの隙ゝあら

ば太素神の我を生ゝ我を養ふ御厚恩をわすれぜ万分の
一に奉報べき御德の祝詞を一度なりと唱へ御禮申て末
の世まで神德に悖る事なく死し後は幽魂の黄泉國にさ
迷はぜ眞れ道一筋ゝれゝも太素神の御許に仕へ奉事
を仰き願ふべし

富士の嶺に國原見放け太素の
物つくらしい功德をれゝへ

此道乃一筋知布書波學乃友小澤大人能吾社中之者乎志
天蟹能横行業爾參古良勢自登疊利奈支心乃鏡押靏志立
角行尊師乃布留乃山路爾乘佐之踏分津々太素乃恩賴爾

依里互生出志與理死後万傳夏野行道乃松可計寄天賴武
扁支教爾波有抒楚表心得賀多支人毛猶多加禮婆櫃乃賈
迺一渡理正良爾阿計津良比最毛賢玖甚母貴支道乎委曲
爾說安可斯奴禮婆梓弖心於之波利天拙支事乎一嘗曾由
流者照日乃明爾治留登云十年六月廿余五日那理
棄勢之道乃一筋村肝能心迺鏡磨出古曾見兎

權少講義注連澤與麻呂

明治十年八月廿二日御届

編輯兼出版人　山梨縣平民　小澤彦遲
甲斐國都留郡鶴地村住